

第3章 産業廃棄物発生量等の推移

第1節 前回調査結果との比較

1 発生・排出状況の推移

平成12年度の発生量、排出量を前回調査（平成8年度実績）と比較すると次のとおりである。（表3-1-1、表3-1-2）

この4年間で、発生量（農業、鉱業、医療業除く）は68千t（1.8%）、排出量は145千t（4.2%）減少している。

業種別では減少している建設業（178千t）や製造業（38千t）がある反面、電気・水道業（118千t）のように増加した業種があり、排出量も同じ傾向である。

表3-1-1 種類別の発生量・排出量の推移

	平成12年度		平成8年度		増減	
	発生量	排出量	発生量	排出量	発生量	排出量
合計	3,619	3,267	3,687	3,412	-68	-145
燃え殻	10	10	36	36	-26	-26
汚泥	1,760	1,700	1,906	1,900	-146	-200
廃油	61	60	61	58	-0	2
廃酸	45	41	22	20	23	21
廃アルカリ	53	53	23	23	30	30
廃プラスチック類	119	115	122	109	-3	6
紙くず	4	4	14	7	-10	-3
木くず	69	63	88	76	-19	-13
繊維くず	1	1	1	1	-0	-0
動植物性残さ	38	35	35	33	3	2
ゴムくず	1	1	2	2	-1	-1
金属くず	293	65	232	67	61	-2
ガラス陶磁器くず	92	88	80	70	12	18
鉱さい	109	108	128	107	-19	1
がれき類	912	869	910	877	2	-8
ばいじん	52	52	24	24	28	28
その他産業廃棄物	0	0	2	2	-2	-2

表3-1-2 業種別の発生量・排出量の推移

	平成12年度		平成8年度		増減	
	発生量	排出量	発生量	排出量	発生量	排出量
合計	3,619	3,267	3,687	3,412	-68	-145
建設業	1,091	1,042	1,269	1,232	-178	-190
製造業	2,018	1,779	2,056	1,820	-38	-41
電気・水道業	463	403	345	345	118	58
運輸・通信業	12	12	3	3	9	9
卸・小売業	31	29	9	9	22	20
サービス業	3	3	4	4	-1	-1

2 処理状況の推移

発生量に対する各処理量の割合を前回調査と比較すると次のとおりである。

発生量は減少しており、その処理については、減量化量及び資源化量は増加し、最終処分量は大幅に減少している。

表3-1-3 処理状況の推移

	発生量	排出量	減量化量	資源化量	最終処分量
平成8年度	3,687(100%)	3,412(93%)	1,464(40%)	1,441(39%)	780(21%)
平成12年度	3,619(100%)	3,267(90%)	1,791(49%)	1,482(41%)	345(10%)
推移(率)	-68(-1.8%)	-145(-4.2%)	327(22.3%)	41(2.8%)	-435(-55.8%)